



みのる座（島田市）



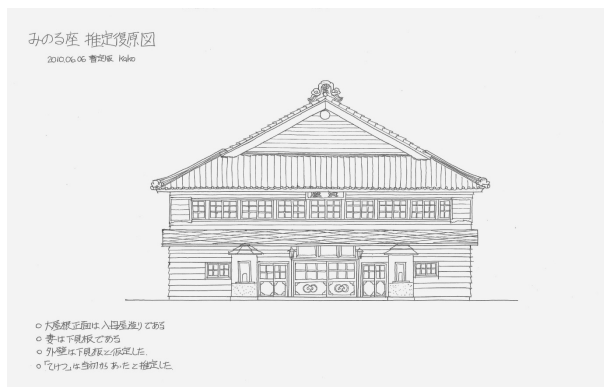
■映画館としてのファイナル

大正5年に芝居小屋として建設され、昭和30年代に映画館に生まれ変わり、今年（2010年）3月10日に「男はつらいよ、噂の寅次郎」を上映し、山田洋次監督トークショーでファイナルを迎えました。上映の切符は、午前午後とも190席が15分で完売してしまうほどの盛況でした。島田市民のみのる座への愛着の大きさを感じました。テレビ局、新聞社の山田洋次監督への取材の数も多く、久しぶりに町が燃えました。

■大正時代、芝居小屋の痕跡

今年の6月5日、6日に賀古唯義氏（文化財建造物保存技術協会大阪支部）を交え、建築士会と五意の会でオーナーの承諾を得て調査を行いました。

小屋裏から棟書、寄せ棟跡、大正当時の天井跡が見付かり、実測等をして、それをもとに賀古氏が芝居小屋当時の想像姿図をその場で書いてくださいました。形に近いものでは嘉穂劇場（福岡県飯塚市）が上げられると賀古氏は言っていました。5日の夜の懇親会は、皆な新たな発見で興奮し、美味しい酒が飲めました。



賀古氏作図の推定復元図（下記のメモが添えられている）

- ・大屋根正面は入母屋造りである
- ・妻は下見板である
- ・外壁は下見板と仮定した
- ・「てけつ」は当初からあったと推定した

■大正時代の天井

来年（2011年）で解体工事に入る事が決まり、オーナーに了解を得て、10月3日に建築士会、五意の会の数名で、天井を一部解体して、芝居小屋当時の天井を見られるようにしました。予想通り、格子だけが残っており、天井板はなく、当時は、格子のますに広告をはめて、収入を得ていたようです。他の芝居小屋にも同様なものがあります。天井格子は梁からボルトで吊られており、格子の上を人が歩けるようになっています。小屋裏からは広告看板は発見できませんでした。

格子ますは10列の8列で四隅に換気口があり、中央部4ますは舟底天井の様になっていて、そこに照明が吊されていたと推測できます。広告が出来る格子ますは、72ますとなります。

解体の際は、94年分の埃をかぶり、マスクをしていても鼻の穴は真っ黒でした。



天井を剥がすと、芝居小屋当時の格子天井が現れる

■文化財に携わって

平成21年に文化財育成研修に参加し、大規模木造建築として、みのる座をグループ研修の題材として関わり、建物の価値、94年の歴史を教わりました。まだいろんな方に見ていただきたい気持ちでいっばいですが、残念です。

（H21「地域文化財専門家」研修生 岩倉 富士男）